

ねがめと計時
修繕 販賣
 店計時木鈴
 平 車場通

散歩に外出に

立派で丈夫な靴が参りました、今までの既製品と違ひ優に手縫靴より以上の耐久力があります

紳士用キツト短 一二、五〇
 ブルス編上 八、五〇
 同 短 七、五〇
 學生用リオーダー 六、九〇
 ホツクス編上 七、五〇
 徳用ボツクス編上 七、五〇
 同 短 七、〇〇

丈夫な茶利革編上 六、九〇
 此の外種々取揃へてあります是非一度お試し下さい

にツルヤ
 四丁目
 電話百四十番

平町細屋町(縣社通り)

美味評判
イノチ食堂
 オの部電話四六〇番



体温計
関内薬局
 寒暖計
 電話四〇番

春の彩り!!
装ひは三井
 羽二重九寸 博多九寸
 京御召と錦紗小紋

主婦の友三秀會特選
 ▼ 帶皮陳列 ▲

何卒御用命は弊店へ……
 平町三丁目
三井呉服店
 電話三十八 七五一番

いや……君、見違ひたよ
 いやアイギを求めたね
 いやコレカネ……
 例の「ソレ」

正札堂
 アハハ……

り通車停町平
堂札正

燃料界の親玉徳用煉炭

良品は多言を要せず
 無煙無臭で火力強く
 火持のよい事素敵也

一個の御注文でも直ちに配達致します
 何卒御使用下さい

磐城殖産合同株式会社
煉炭部
 平町南町五〇
 電話四六番

定一部金貳錢 廣(五號十二) 休(日曜大祭) 福島縣石城郡平町長橋町三五
 價一ヶ月貳錢 料(五號十二) 刊(日曜) 發行所 常磐毎日新聞社
 郵税五厘 料(五號十二) 刊(日曜) 電話六三〇番

常磐新聞

刊夕日四月五

常磐毎日新聞
時代相について
 高島平三郎

(一)

一體我々が時代相といふことに就いて考へるときには何を以て判断するかといふに、これには二つの方法しか無いと思ふ、即ち一は自分が實際に種々の事に出逢ふことによつてこれを經驗する、他は新聞や雑誌の報道に基づいてそれを統合する——この二つである、而して自己の經驗によると新聞雑誌の報道によるとその

何れにせよ、等しく事實の枚擧歸納であるが、この論法は屢々事實の真相を傳へないで、誤りを生じ易いので論理學に於てもこれに依ることを戒めてゐる、従つて社會上の判断乃至時代相の觀察等に於て、その事柄の枚擧歸納にのみよることとは同様に戒めねばならぬことである、之と同時に世の操觚者はたゞ讀者の興味をそゝることばかりを書かうとせず、無冠の宰相として天職を考へて、その取扱ふ記事などに大いに注意を拂はねばならぬと思ふ。さて現在の日本の時代相はどうかといふに——私自ら

枚擧歸納によることを非難しながらもなほ新聞雑誌に材料を求めざるの外はないから、先づ假りに之によれば——教化、政治、經濟等すべての方面に於て善くないことが澤山ある、現代の諸相について何人もこれによつて満足し安心してゐないことは、勿論私とても充分認めてゐる、然し批判なしに、たゞ表面に現はれた點だけをそのまゝ歸納して現代の日本が總べての方面に於て頽廢してゐると考へたり、論断したりすることは却つて誤謬に陥る危険を伴ふものであると思ふ。

春の歡樂の
 品本位の
 酒銘醇芳

白馬
 御用命の程願
 上ます

辰ノ口本家
 平窪松本徳一
 電話「平」七五二番

坊ちやん嬢ちやんの衛生的な食卓として滋養の多い飛切うまい松本屋のパン

食パン 一斤 十六錢
 バン 一斤 十六錢
 ムッシュ 一斤 十六錢
 ツラン 一斤 十六錢
 ミツマ 一斤 十六錢
 ムッシュ 一斤 十六錢
 ツラン 一斤 十六錢
 ミツマ 一斤 十六錢

目丁四町平
ヤトモツマ
 番四一二話電

營業種目 **石炭 コークス 玉炭**

● 磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
 ● 正味十貫目入 壹俵 金六十五錢
 ● 日本第一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス 壹俵 金壹圓三十錢
 ● 木炭ノ三倍御徳用ナ丸通ノ玉炭 一、玉 炭 大箱壹箱 金 貳 圓

電話二二三七番
 平驛前
阿部石炭商店

花柳科 **専門**

木村外科醫院
 入院自炊の便あり
 平町五丁目橋際
 電話三〇九番

學家から家庭へ

先生を慕ふ子は 學校を好く子

曾我第一校長談

さう澤山はないけれども、それでも學校へ行くのをいやがる子供はよくあります。で、両親や先生を困らせるものである、これはどうしたらよいのでありませうか、一体

「さう云ふ譯で學校へ行くのをいやがるやうになつたのか、其れを第一に考へて見ませう、これまで家庭でうんとわが儘に育てて一人子なんかは、よく學校へ行くのをいやがるものです、又あんまりおぢいさんおばあさんにあまやかされて育てられた子供

「氣の弱い 子供などもさうなり勝てあります、これは早く云ふとこれまで家の中で自分一人の天下で生活して来たのに、急に大勢の友人の中へ出て學校生活を始めただけで、これまでは面くらふわけです、これまで他の子供と少しも遊んだことの無いやうな子供は、どうしてか困つてしまふのです、他の生徒はなか〜

面白さうにやつてゐるけれども、自分は少しも面白くない恥かしかつたりします、と〜學校もいやになる譯であります、先生はこはいです、よ、よ、これはいけません、こわい先生と云ふのは宜ろし

くない、そこで先生が何か云ふと決して叱つたのでなくともすぐ泣き出し、てしまふ

「どう云ふおしまひには學校がいやになつてしまひます、どうぞ先生にすぐやうに先生をなつかしみ慕ふやうにして下さい、どうしたら宜ろしいか、當分送迎を同時に行つて頂くと同時に先生に相談して先生から特別に氣をつけてもらひ先生や學校を好くやうにしてもらひます、先生を好くやうにならなくてはなりません、親切なよい

「友達も 必要ですから、近所の上級生に學校へさそつて行つてもらふとか、仲よく遊んでもらふとか致します、遅刻がいけない、皆もう並んでゐる處へ行つたのではいよ〜面白くなくなるからです、(曾我第一小學校長談)

小名濱商港 起工式期日

廿二日と決定

本縣が一大事業として本年から繼續して行ふ第二種港灣として改修する小名濱商港の起工式については縣において清野道路主事安部主任屬地元小名濱町から田崎助役、町會議員小野務平氏

内務省仙台北木出張所から石川事務官等が來縣し二日打合せをなした結果いよいよ来る二十二日午前十時より小名濱町小學校下の海岸砂漠地で總理大臣、内務大臣、農林大臣、貴衆兩院議員、前本縣知事であつた伊

敵味方の別なく 人物本位で推薦

平町會議員の改選を控へ 政友派の大雅量

平町にては町會議員選挙の期日が近づいて來たので各區共夫々候補者を擁立すべく徐々に準備を進め始めたが民政派にては十名内外の

「公認候補」を決定し必勝を期する事になつた模様である爲め政友派も是れが對抗策を講ずるの必要に迫られ明日午後一時から三丁目山本屋旅館有志集協議會を開く事になつた

東長崎縣知事その他朝野の名士十八名餘名を招待し盛大に舉行する事に決定したので小名濱町では年來の宿望が漸く達したので協賛會を組織し大いに優待すべく小名濱の有望なるを天下に周知せしむることとなつた

赤チヤン大會 愈よ明日

二百名突破か

既報平町の赤チヤン大會は明日藤田女學校に於て開催される筈であるが既に申込濟みとなつた希望者は百廿六名の多數で大丈夫二百名を突破するであらうと見られて居る

平第一第二校 保護者總會

八日に開く

平町第一、二小學校の兒童保護者會の理事會は七日午後三時から第一小學校において開催尙同兒童保護者會の總會は八日午後三時から同校において開催の筈

大燈臺建設

小名濱港に

小名濱商港の實現と同港町の縣燈臺では小規模で任務を完全に果せなく、るの

明日の天気 北東の風 天気次第 よ晴る (終)

五月の初旅

警女修學旅行便り

(第一信) 緑、々、々、鮮かな五月が光ります、實に愉快な初旅です、水戸、弘道館見學、小山大至急の乗りかへ、そして日光迄直行後大谷に沿ふて馬返しまで電車馬返からの九十九折の坂道、その間岩つゞじのちらほら咲き、その外は未だ青葉には早すぎるやうな湖畔の晩春はどつか心の隅に淋しい影を投げてゐます、それに華嚴の空瀧が又物わびしく思はれました、今湖のほとり宿で疲れた体を休ませて居ります、もう夕ぐれの薄霧の中に水のほの明りも吸ひ込まれてしまひました明日の日が待たれます

赤井岳に 運動場新設

準備を急ぐ

磐城の名さつ、赤井岳薬師を天下で紹介するため若松縣議等は金華山から鹿を取寄せて放牧、コライキチを放つて一町餘歩を禁獵區とし參道の縣道編入等に全力を注いで居るが大體の輪廓が出来たのでこんどは海抜二千七百尺の三石山の頂上百町歩を開拓して大規模のグラウンドを設置することに目下準備を急いで居る

平青年の協議 平青

今春の銘仙 談店服吳井三

年團にては六日午後六時半から常磐銀行平支店内にて幹部會を開き春季總會開催の件を附議する

依然と

銘仙における

銘仙における緋は、ものが多く縞物はすべてすつきりした好みのものが現れてをります、それが今年

紫地に

匹田調子で

花模様を上品にさつぱりと現したものと年頃向きで納戸地に市松と櫻の模様をあしらつた艶な調子のもの

關西の旅から

警女關西旅行團

五月二日(第八信)私達は恵まれた天候と健康によつて最後の日を迎へる事が出来ました、誰れもみな元気な旅の疲れも何處へか消え去つたかの様に見えました、岩本樓を午前七時頃出て水族館へ行き様々な珍しい魚族を覽てからいよいよ江の島を出發しましたさう湖になつた海は長い橋を渡り心地よい潮風に送られながら見返れば緑の印象深い江の島が一つポツンと取殘された第々々に私達の視界をなれて行つた時は思はず軽い哀愁を感じながら鎌倉の電車で東京驛に着き更に省線電車で上野に向ひ卒業生の御姉様方の人となり午後七時三分半驛着校長先生や諸先生の笑顔に迎へられて一行喜びに満ちて各々楽しいホームに向ひました、若葉薫る關西の地を目指して私達が初めてスタートを切つてから丁度七泊八日此の間周到なる諸先生の御引率により善く最後の御禮申上げて筆をおきます

模様を

取り入れた

調子のものであります、最もモダンな柄のものとして十七八歳向きのものとして薄紫地に表現派風の模様を現したものがあつます、これは柄が大きくて遠目が利きます値段は模様物で十圓以上十三圓五十錢位縞物は七圓から十圓位まで、八圓から十圓まで、ありませ

(三井呉服店談)